



クイーン・ヴィクトリア 15の変化：
バルト海クルーズ 2014.8.31～9.14

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-05-18 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 堀江, 珠喜 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10466/15375

クイーン・ ヴィクトリア 15の変化

バルト海クルーズ 2014.8.31 ~ 9.14

大阪府立大学 教授 堀江 珠喜

QM2のサービス低下やQEのコストカットぶりについては、本誌で既に述べた。ではキュナードの残りの一隻、QVはどうなったのか。私がロンドンで8月30日夜に用事があり、ちょうどその翌日からサウサンプトン発着のQVバルト海クルーズがあったので、2年半ぶりに乗船した。キャビンは2009年にサウサンプトン発着のショートクルーズで使ったのと同じデッキ5、右舷最後尾角部屋である。ちなみに2012年のパナマ運河では、同デッキ左舷最後尾角部屋だった。以前にも書いたように、ビスタクラスではL字型バルコニーのある最後尾角部屋を、私は好んでいる。今回のクルーズ中、様々な場面で変化を認めたので、15項目にまとめて報告したい。

1. カミラのポートレートが老けた!

QVのゴッドマザーはチャールズ皇太子の現妻、コーンウォール公爵夫人である。皇太子がダイアナと結婚する前から付き合っていたカミラと言ったほうがわかりやすいかもしれない。このスキャンダルだけでもQVのイメージを引き上げはしないと思うが、英国王室の写真がパブリックスペースの方々に（なんとトイレの前にまで）飾られている中で、ひととき目立つのがカミラのポートレートである。以前のは腰掛けて足を組んだポーズの写真で（日本では足を組むのは行儀が悪いとされるため）私には印象的だったが、今回見た油彩の肖像画では、足が組まれていない。それはいいが、公爵夫人は随分老けて描かれている。リアリズム絵画はときとしてグロテスクである。皮膚なんぞ、ボロボロだ。よくも彼女はこんな自分の姿を公開することに同意したものだ。同性としてまったく理解できない。オスカー・ワイルドの名作『ドリアン・グレイの肖像』で、悪魔に魂を売っ



コーンウォール公爵夫人
写真(上)と肖像画(下)



た主人公がいつまでも若さを保ち、代わりにその肖像画が老けて醜悪に変化するという物語をも、連想してしまう作品であった。

2. ベッドカバーが消えた!

ベッドカバーについては2012~3年のQM2で既に使用されていなかったし、QEでは初めからなかった旨を聞いていたので、QVでもこの件については予想通りであった。さて航海10日目の夜、ゴールドメンバー以上のリピーターが招かれるカクテルパーティがあった。その際、ホテルマネジャーと知り合ったので、いつからベッドカバーが使用されなくなったのか尋ねたところ、必要ならばすぐに届けさせるとの驚くべき答えが返って来た。「ベッドカバーがないと病室みたい」というと、早速、彼はカバーを手配してくれたのである。つまり、使用されなくなっても、船内には在庫があったのだ。写真撮影用なのか、こんな煩い客のためなのか、理由を聞きそびれてしまったが。



2012年乗船直後のベッド



ところが、2年ほど使われていなかったため、担当のバトラーもアシスタント・バトラーも、この扱い方を知らなかった。そもそも2つのシングルベッドを合わせてダブルとして使用するか、離して設置しツインにするかで、ベッドカバーのサイズも異なるのだ。それも確かめず運ばれたのは2枚のシングル用。これらをダブルベッドで使うのだから、ベッドメイキングも困難ではある。

しかし、就寝用の枕を隠すように上からカバーするのが、本来のやり方だったのに、うちの担当者はカバーをかけた上に枕をおき、丸太状のクッションを置く。どちらがよりエレガントか、誰だってわかるはずだ。このカクテルパーティの後、ホテルマネジャーに出会ったところ、無事にカバーが届いたか心配してくれていたの、ベッドメイキングの仕方が違うと指摘した。なんと彼は枕はカバーの下でも上でもどちらでも良いと言い、もし下にして欲しいならバトラーに言ってくれとのことであった。このマネジャーは家でベッドカバーを使っていないのだろうか？少なくとも以前、ベッドカバーがあった時代のQM2とQVでは、枕はカバーの下に隠れており、従業員もそのように教育されていたはずだ。

さらに、夜のターンダウン時、本来、カバーはベッドの下の大きな引き出しに入れることになっていたのが、今の従業員には伝えられていない。そのため重く大きなカバーを、ソファの上に置きっぱなしにしてしまう。まあ彼等にしてみれば、余分な仕事を増やされて愉快ではないのだろうが、こちらだって一応、クイーンズゲリル・スイートという料金の高い部屋に宿泊するかぎり、以前並みのエレガンスとサービスは求めたい。



(左) 収納場所がわからずソファに置かれたカバー

(右) 本来ベッドカバーを入れる引出し

(左) カバーは届いたがベッドメイキングの方法は伝えられていない



3. バスルームのアメニティが変わった!

夜のチョコレートのサイズが小さくなったことも、QM2とQEでの体験から想定していた。こちらはバトラーに、2013年のQEのチリ人バトラーが多い目に置いてくれて嬉しかったと最初に告げたので、4枚に増やしてくれた夜もあった。

驚いたのは、これまで筒状でわりにしっかりして使い勝手のよかったシャンプー、コンディショナー、ボディーローション、シャワージェルの容器が、一見女性受けするが開けにくいものに替わったことだ。メーカーも異なっている。しかも、以前なら、少し使ったら、夜のターンダウン時や朝の清掃時に新しいボトルを添えてくれるのに、そのサービスもない。確かに少し大きな容器になったので使い切るまで、追加しないというコストカット方式のようだ。こちらバトラーに交渉して、ボディーローションは毎回、新しいものを追加するように、他のものについても使用途中で不足しないように気を付けて追加するように頼んだ。他にも私のようにボディーローションを持ち帰りたがる客がいるようで、その点はよく理解してくれたが、その他の容器については、シャンプーを使い切っているのに補充されないこともあった。なお、追加される容器は、初めのものよりかなり小さい。

足の裏をこするヘラの形も変わった。ユーモラスだが、持ち具合は以前のほうが良かった。



フットケア用品(下が従来品)



ボディーローションのボトル(左が従来品)

4. ルームサービス時のテーブルクロスが小さくなった!

テーブルクロスは食事時のエレガンスを演出する。スイートとしては手狭な客室においては、これだけでも、随分、雰囲気を変えてくれる。私はキューナードのルームサービスメニューでは、クラブハウスサンドウィッチが好きなので、航海中に1、2度は注文する。またアフタヌーンティに出かけるのが面倒なときや、客を招きたいときなどは、部屋にお茶のセットを届けてもらう。

これまでは、テーブルには大き過ぎると思えるほどのテーブルクロスがともに運ばれ、これこそがホワイトスターサービスだと言った従業員もいたほど、うやうやしくテーブルに広げられたものである。ところが今回、このサイズが小さくなり、大きめのランチョンマットくらいになってしまった。これではテーブルの上に段差がつくので、うっかりとシャンパングラスが置けない。ついでながら、夕方に届くカナッペも数は5個で以前と同じだが質の低下が認められたし、ときには配達が忘れられたりした。



2012年のルームサービス(左)
大きなテーブルクロスが優雅
今回のルームサービス(右)



ウェルカムシャンパンとポールアカー 2本(左)
部屋に備え付けのメニューホルダー(右)



本来はメニューを入れて
立てておくべきメニュー
ホルダー(左)
ホルダーに入れず、担当
のバトラーは、メニュー
をテーブルに置くだけ
(右)

5. スパークリングワインの銘柄が変わった!

これまでのように乗船時にウェルカムシャンパンと苺がテーブルに置かれていた。2012年には、もう一本、(事実上カーニバル専用ブランドのフランス製スパークリングワイン) ポールアカーが置かれていたのが、今回はこれが2本に増えた。(ちなみに2012～3年のQM2やQEではウェルカムシャンパンとクレマン、各一本が置かれていた。) ポールアカーはキューナード船上でカクテルパーティ、ゲームやコンテストの賞品としてよく用いられていたが、美味とはいえず、パナマ運河クルーズのときには4本獲得したすべてをバトラーに渡した。ちなみにポールアカーはプリンセスクルーズでも使われている。

今回のゲームやコンテスト賞品で使われたのは、これよりも安価と想定される(つまりポールアカーと比べてより美味とはいえない) コンテッサというスプマンテであった。2本獲得したので、1本は我々が飲み、もう一本は手紙を添えてバトラーに渡した。ポールアカーだ

と、客室から盗んだように思われては気の毒なので、こちらをあげることにしたのである。新米のバトラーと新米のアシスタント・バトラーだったので、思いのほか喜んでくれた。(話を聞けば、バトラーはバトラーのトレーニングセンターから戻ったばかりだし、アシスタント・バトラーはついこのあいだまでフローリストをしていたとか。そんな仕事に慣れない2人を

ペアにして現場に出すから、毎日のメニューを部屋に備え付けられている黒いホルダーに入れてテーブルに飾ることすらしてくれない。たぶん、教えられていないのだ。QEでは当初からこの黒いホルダーが作成されておらず、毎日とどくメニューも安っぽい用紙の両面コピーだったが、QVではホルダーもメニューの紙の質も以前のままで、クイーンズグリルで隣席の老英国人カップルに尋ねたところ、いつものようにちゃんと毎日、メニューを挟んで置いてくれるとのことであった。うちのバトラーはメニューの紙をテーブルの上に置くだけである。)





6. 写真屋が替わった!

これまではイメージズという会社が船内で営業していたが、我々の乗船2カ月前に、ザ・シップス・フォトグラファーに替わった。(QM2、QE においても同様に入れ替わったようだ。) まだ機械装置が揃わなかったため、この航海の DVD は作成されず、残念がる乗客も少なかった。またイメージズなら、たとえばタイタニックの階段を描いたスクリーンを用いたり、船内の写真スポットを陣取って記念撮影をするなど、乗客の好みを把握していたが、新しい業者は、どこで写しても同じような(つまり船内で写す意味の無い)ポートレートを写していた。写すのは良いが、ちゃんと買ってもらえたのだろうか。

イメージズなら多く買えば買うほどお得感のあるパッケージ・システムを提供していたが、新業者は、1枚、たとえば船長主催のレセプションの写真を買うと船長のポートレートと略歴のかかれた写真をおまけで付けてくれるといったサービスでこちらの心を掴もうとする。おまけより、値引きのほうが有難いのだが。

また2012年のクルーズではイメージズは、美しいレイアウトを施し航海の記念に大切にしたい写真を販売してくれた。新業者も、レイアウトを工夫しようとはしているのだが、趣味がよろしくない。写真学校卒業したばかりの新人集団による作業かと思われた。そのため、テーマボールを積極的に写しに来ない。我々にしてみれば、自分たちでは撮れないような、たとえば自分たちがダンスをしている写真が綺麗にとれていると嬉しいものだ。



だが、そのような動いている被写体はほとんど見られなかった。例外的に私の一枚あったので、迷わず買った。

おそらくはエンターテインメント部門との連携もよくないのだろう。船長主催のサイン会が下船前日のアフタヌーンティダンスの直後に行われ、そこに写真屋も来て写していた。

キャプテンのサイン会

しかしそれでなくても下船前日の午後は慌ただしく、夕食の前後はパッキングに追われる。サイン会で並んだ客の数も、2012年のときに比べて少なかったし、彼等はその後、写真屋に立ち寄ることを失念したのではあるまいか。私もそれに気がついたのは、翌日、空港に着いてからだった。通常はDVDの引き渡しのため、下船前夜は11時頃までイメージズは営業していた。新参写真屋も船長のサインを貰った客に、「今晚の何時から何時まで並んでいます」と囁いていれば、もう少しは売れたかもしれない。

7. キャビアが美味しく、盛が多くなった!

良くなったこともある。今やキャビアはクイーンズグリルの裏メニューだ。そのためマネジャーの許可がないとウェ이터の判断では受けられなかったときも、かつてあった。しかし今回は、アラカルトメニューの、カニサラダの上はかなり多くキャビアが載せられていたように、キャビアについてはかなり寛容であった。それで乗船三日目からアラカルトが注文できるようになると、ほぼ毎晩、前菜にキャビアを注文した。ベルーガとは比べ物にならないが、それでも近頃、フランスの三ツ星レストランで出されるものやロンドンのキャビアハウスのプルニエよりよほど美味しい。粒も大きい。カスピ海のチョウザメを輸入して養殖した米国産ということであった。

後述するが、朝食には裏メニューのシアードエッグ(キャビアを上に乗せた、オープンでの目玉焼きクリームソース付き)を毎日注文したので、同じロットのキャビアを私が食べ尽くしたのかもしれない。クルーズの途中で、キャビアの粒が小さくなり、味もやや落ちたが、終わり頃になると、



米国産のキャビア

再び大きな粒の美味なキャビアが出た。1日に、朝夕合わせて50gくらい食べたのではあるまいか。ベルーガならどんなに安くても10gで1万円を下らない。最近ではオシエトラでもそのくらいする。それを考えると、クイーンズグリルクラスで旅行するかぎり、キャビアを食べなければ損だと思ってしまうのだが、本当に今回の米国産は美味しかった。



下船日にも用意されたシアドエッグ

8. 下船日にもシアドエッグが出た!

2009 年頃まではシアドエッグは朝食メニューに載っていたのだが、その後はリピーターのみが知る裏メニューとなり、2012~3 年の QM2 では、マネジャーの許可が必要になり、2013 年の QE では前夜にプレオーダーをしなければならなかった。

そこで、乗船日にグリルのマネジャーに尋ねたところ、プレオーダーは不要で、朝、ウェイトレス（今回のテーブル担当は 2 人も女性だった）に注文してくれと、QE とは全く対照的な対応であった。

ただしメニューから外れて久しいと、調理人がよくわかっていないことがある。クリームソースが多過ぎてキャビアが沈み、変質してしまうのだ。そのため、初めの何日かは以前の写真を持参し、イメージを伝えることにしている。それでも水没状態のが出て来ることもある。高級食材のキャビアの扱い方に慣れていないのだろう。

下船日はルームサービスの朝食も注文できないし、レストランでのメニューも選択肢が減るのが通常である。オープンの必要なシアドエッグも出してもらえないことになっている。2009 年の QV では、その代わりに、ふつうの目玉焼きの上にキャビアを載せてくれた。ところが今回のクルーズでは、朝食の席に着くや、ウェイトレスが「いつものでいいですか?」と尋ねてくる。乗船 3 日目には我々の好みを把握してくれているので「いつもの」というだけで注文できたのだ。「でもシアドエッグは無理でしょう?」と尋ねると、「大丈夫だと確認済みです」との返事。ちゃんといつも通りシアドエッグが出て来た。このウェイトレスのサービス精神に感心するとともに、じゃあ、これまでの「下船日はダメ!」はなんだったのかという疑問が残った。

クイーンズグリルに関する限り、キューナード三隻のなかでは QV が最高だと思う。クレープシュゼットで、あらかじめ用意されたオレンジジュースではなく、その場でオレンジを絞ってくれるのも、QV だけだ。東京のホテル・オークラのフレンチレストラン、ベルエポックでも、そこまではしてくれない。QE のようには船名がブランド化しておらず、QM2 のようには「最後の豪華ライナー」と銘打つ特徴もない QV としては、せめて料理で勝負しようとしているのではあるまいか。そう感じられたサービスと内容であった。

9. クロコダイルが出た!

食材については航海場所によって、その質が異なるので、どの船が良いとも言いがたい。たとえばクイーンズグリルのアラカルトメニューのシャトーブリアンは我々夫婦の好物だが、今回のクルーズでは英国産牛肉が使われ、一度で懲りた。それよりも英国産のラムのほうが美味だった。隣席テーブルの老英国人夫婦によれば、英国産のラムは英国でも高く、安物はニュージーランド産の冷凍ラムということであった。ワゴンサービスされる鴨のオレンジソースかけも悪くはなかったが、これについては 2013 年の QE のメートル D'ニコによるほうが美味しかった。

それよりもクルーズの 4 日め、ディナーのメニューに「クロコダイル」の言葉を見つけたときにはまさかと思いつきながら、本当にあのクロコダイルなのかマネジャーに尋ねた。アボカドは日本語で「鱈梨」と呼ばれる。英語ではアリゲーター・ペアとも言う。だからこの「クロコダイル」も何か他の代物をさすのではないかと思ったのは、私ばかりではない。マネジャーは微笑んで、「本物のクロコダイルです。でも噛みませんから、御心配なく。美味しいですよ」とのこと。

私の父が戦地で、大きな蜥蜴の切り身のカツレツを食べたところチキンのように美味しかったと語ったのを思い出したので、多分それに似た味だろうと予想していたら、まさに上等の地鶏からチキン独特の臭みを抜いたようだった。ベーコンで巻いて焼き、スパイシーなケイジャンソースがかけられている。その数日後、隣席の老婦人が「本当にクロコダイルとは思わなかったので注文しなかった。食べてみたい」というので、マネジャーを呼んで在庫を確認させ、彼女と田中博、私の計 3 人分を翌日のディナーに注文した。彼女の夫は絶対に嫌だとかたくなに断った。



クロコダイルのスパイシーな料理(上)
クロコダイルのカツレツ(下)
チキンのような肉

10. 大バザー開催!



クイーンズルームでのロシアバザー

クイーンズルームで大々的にバザーが開催されたのは、私がこれまで乗ったキューナードでは2011年のQM2ワールドクルーズにおいてだ。ちょうどこの船が地震の被害を受けたクライストチャーチや日本に寄港していたので、それらの被災地への募金を目的に、客が不要品を出したり、船側がポスターなどのグッズ、宣伝をかねてスパからも10分間マッサージのブースを出し、乗客のボランティアやダンスホストたちが、一回1ドルのゲームを手伝っていた。これについても本誌で既に語った。

しかしながら、寄港地の物産展がこのように広いスペースで行われることなどなかった。せいぜいが、廊下にごく短期間、机を並べて安価のみやげを販売したり、船内各店舗がそれらしい現地の品物を置く程度だった。

ところが今回はサンクトペテルブルグを出港した2日後の朝、クイーンズルームでロシア・バザーが開かれたのだ。折しも西側各国がロシアへの経済制裁を打ち出している最中である。乗客のほとんどは、サンクトペテルブルグを自由に歩けるヴィザが取得できず、エクスカーシオンに参加し、ガイドとともに行動しなければ入国できなかった。そのために思うように土産が買えなかったかもしれないとの配慮が船側にあったのか、そしてそれが正しかったのか、バザーは大盛況だった。ほかにたいした催し物がなかったためでもあろうが。

物品販売だけではなく、飲食コーナーもあり、こちらはロシアというよりフィリピン風だったが、追加料金なしに珍しいものが試食できるとあって、朝食代わりにきたと思しき客もいた。バザーは昼食前まで続いた。サンクトペテルブルグの免税店や港の土産店、街でガイドが連れて行ってくれた店では米ドル、ユーロ、クレジットカードが使えたが、外貨を持たない英国人にとって船内のほうが支払いは楽だろう。このクルーズはサウサンプトン発着のため、客の大部分が英国人だった。

11. エクスカーシオンから戻ると、乗船前に飲み物とお出迎えサービス!

サンクトペテルブルグでのみなされる特別サービスなのかもしれない。個人ではロシアのヴィザ取得が困難なため、ほとんどの乗客はエクスカーシオンに参加して入国する。今回はこの地で船が一泊し、2日めの出港予定時間間際になって戻ってくるエクスカーシオンバスが多かった。出国審査でも長蛇の列だが、それを過ぎても2カ所の乗船口前により長い列ができており、なかなか進まない。荷物のX線検査に時間がかかっているようだ。



飲み物をサービスする接客要員

もちろん全員が乗り込むまで船は出発しないのだが、長時間の観光で

疲れて不機嫌になる客もいるかもしれない。

そこで、船の前では、何人ものウェ이터が飲み物をサービスし、レストランのマ

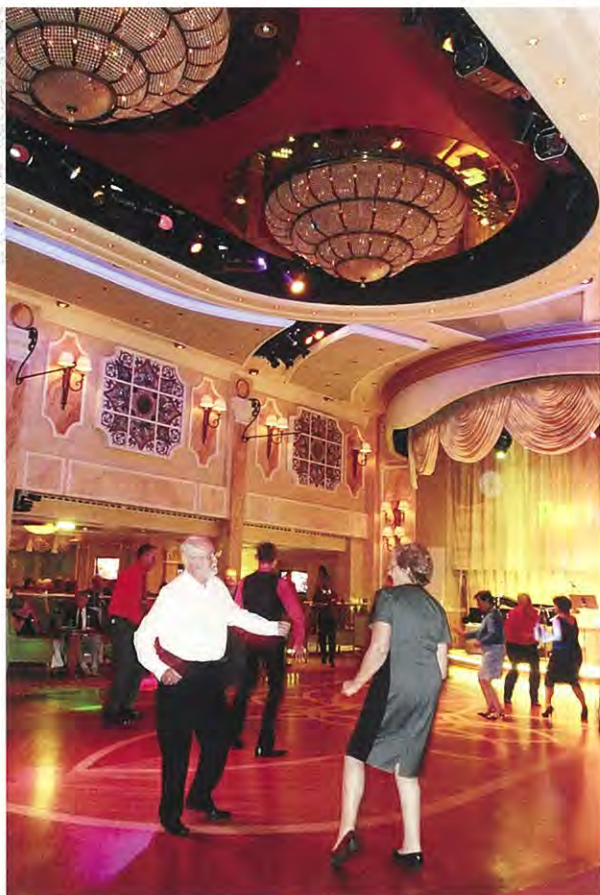


コック達が揃って我々を迎えてくれる

ネジャーなどサービス係数名と、コックたち数名が並んで客たちを出迎えた。その思いがけない光景に、乗客は写真を撮ったり、彼等としゃべったりして、この行列の苦痛を和らげることができたのである。今回のクルーズの各寄港地はたいして興味深いわけではないが、この地域としては珍しいことに、全行程で良い天候に恵まれた。このような出迎えがなされたのも、雨天でなかったおかげであらう。

12. ダンスコンテストがなくなった!

これまでショートクルーズでなければ、キューナードの各船ではなんらかのダンスコンテストが開催されている。2012年のQVでは、早くから参加登録が呼びかけられ、音楽合わせのリハーサルもあり、クルーズ終盤の航海日、アフタヌーンティダンス直前に、クイーンズルームで催された。一組づつデモンストレーションの形式である。各カップルが好みの種目と曲を選べた。乗船日



クイーンズルームでのディスコナイト(踊る者の殆どは盛り下げスタッフ)

数最多記録を持つバーンシュタイン夫人もチャチャチャで参加した。

2013年のQEでは、最後のフォーマルナイトに、登録カップルが全員で同時にチャチャチャやワルツなど与えられた曲で競い合うものとなった。キューナードでは最後のフォーマルナイトをロイヤルアスコットボールに設定することが多いが、QEではこの楽しい英国らしい帽子のイベントがないかわりに、ダンスコンテストが行われたようだ。2010年までのQM2では、わざわざダンスコンテストと銘打ったイベントはなかったが、ビッグバンドの演奏が入るフォーマルナイトに、ジャイヴコンテストが余興として開かれることがあった。

キューナード3隻とも広いダンスフロアを誇っており、他社船に比べてダンスの好きな客がより多く乗船している。またライナーの伝統を重んじる風潮もまだ残っている。そこで夜のダンスタイムは重要視され、ダンスコンテストも楽しみにされたイベントだったのだが、審査方法に不満を抱く者が多く、苦情が絶えなかったのかもしれない。もし皆の前でデモンストレーションをしたければ、最終航海日の昼間に予定されるゲストタレントショーに出演すればいいということだろう。結局は今回のクルーズでは、そのタレントショーで踊る者も現れなかった。

13. ディスコナイト2回!

もしかしたらエンターテイメント・ディレクターが以前ほどにはボールルームダンスを重要視しなくなったのか

もしれない。中年以上の英国人客の多くはボールルームダンスをたしなんでおり、ディスコを望んでいるとも思えなかった。ディスコがよければ、そのためにしつらえられたヘミスフィアと呼ばれるクラブが最上階にある。しかし、乗客のライフスタイルや趣味と、エンターテイメント・スタッフのレベルとがますます乖離しているようで、ボールルームダンスのための選曲も悪く、踊れないスタッフが音楽を仕切り、そのためにフロアで踊る客が少ないのに、ディスコにしたら客が増えるとでも勘違いしているようだった。

QVとQEはクイーンズルームの中に通路があり、シアター利用の客が歩く。もし好きな曲が演奏されていれば、ちょっと寄って踊って行くかもしれないので、本当にダンス目当ての客と立寄客を見分けるのは困難だ。従ってディスコで瞬間的に大入りに見えても、瞬間にフロアが空になり、盛り上げ役のエンターテイメントスタッフだけが踊って、逆にその場を盛り下げてしまうのである。ダンス目当ての客は、テーブルで飲み物を注文して売り上げに協力するが、立寄客は、カネを使わない。

2週間のクルーズなら2回くらい昼間にティダンスが開かれるのがふつうだが、今回は下船前日に実施されたのみだった。近頃はロンドンでも、ウォルドルフホテルが月一回、ティダンスを開くくらいで、サヴォイホテルでは行われなくなったが、英国の地方都市では人気があるとグリル隣席の老夫婦が教えてくれた。健全でしかもエレガントなイベントで、いかにもキューナードらしいのに、回数が減って残念だ。

14. 賞品は4名に贈られる!

ゲームの賞品も4名に贈られるように企画されたが、マスカレードボールの仮面コンテストやロイヤルアスコットボールの婦人帽コンテストの賞品も各4名が貰えることになった。これで審査への不満が減るだろう。というのも受賞者が一人だと、高齢者、子供、身障者のいずれかが出場すると賞が与えられてしまい、それでは仮面や帽子を競うものではないとの苦情が当然ながら出たのだ。お遊びの世界ではあるが、それでもコンテストのために、不味いスパークリングワインの賞品とわかっていても、張り切って用意してきたのに、年齢や身体的理由で優遇される者がいたら面白いわけがなからう。4名なら、高齢者や子供、身障者がいても、本来



ゲームで賞品ゲット(左)

ロイヤルアスコットボールではこの帽子で賞品ゲット(右)



の趣旨に合った参加者にもチャンスがある。どうせ原価のしれたスパークリングワインなのだから、これくらいケチらず、4本用意すればよいのだ。今回のエンターテインメント部門で、この工夫が唯一のお手柄と思われた。

15. スイーツフェスティバルが開かれた!

スイーツの展示会は 2013 年の QE でも開かれたし、ホーランドアメリカでも開催される。さまざまな菓子が可愛く、美しく、面白く作られ、飾られるのだ。その場で調理されるものもある。クルーズ終盤のインフォーマルの夜に行われた。クイーンズルームはディスコナイトで踊りに行く気がせず、会場のリドヘカメラを携えて行った。このような展示に向くとは思えない狭い場所に、詰め込むように並べられ、パティシエたちが最終仕上げにかかっている。多くの客が、入場待ちのテーブルの前で写真を撮っている。

我々はクイーンズグリルで裏メニューのクレープシュゼットをデザートに食べた直後だったので、まったく食欲はなかったが、このように美しく楽しい作品を鑑賞するのは好きなのだ。このような菓子は、むしろ観賞用ではあるまいか。でなければ、こんなに手間ひまをかけて飾り付ける必要などあるまい。

そこでホーランドアメリカでは、まず写真撮影のための時間が設定される。このような写真は帰宅後の良い記念になり、それを友人知人に見せてもらうことで、船の良い宣伝にもなるのだ。なのに、今回はその撮影時間をとらずに、いきなり試食になってしまった。大急ぎで写真を撮り歩いたが、無惨にもどんどん菓子は崩れて行く。襲うように皿に菓子を取り食べるのは、ブリタニアレストランで一回めの夕食をとった客たちではあるまいか。せっかくの作品なのだから、ホーランドアメリカ

並みの気配りは船側に求めたい。

なお、今回はクルーショーがなかった。準備が大変なのであまり催されないということだが、2012 年に比べて、人員削減しているため、あるいはエンターテインメント部門がこのような企画を得意としないためではないだろうか。これもホーランドアメリカでは必ずある。しかも2週間のクルーズだとフィリピンとインドネシア両方の演芸会が一度ずつ開かれるのだ。下手なプロの芸人よりもよほどクルーショーのほうが楽しいのに残念なことである。



スイーツフェスティバル

このように、2年間のあいだに、さまざまな変化があった。コストカットばかりが目立ったわけでもなく、キューナード3隻のなかでは QV はよく頑張っているほうだとは思う。ただし、クルーズの第一目的がボールルームダンスの私としては2回もクイーンズルームでディスコナイトが催されるような船には乗りたくない。その点は、クイーンズルームの横にディスコがあり、クイーンズルームにディスコのバンドが呼ばれることがあっても、ボールルームダンスのできる曲を演奏してくれる QM2 が、もっとも無難かもしれない。しかし料理では QV が優れている。QE は 2014 年春に日本初寄港したが、15 年にも寄り、16 年には一週間ほどかけて日本各地を訪れるらしい。さしずめ QE は、ブランドイメージに心をときめかせるキューナード初心者向けに使われているのだろうか。